

校長式辞

皆さん、ご入学、おめでとうございます。

街角の春の花が、色とりどりに美しく咲く、この良き日に、皆さんをお迎えする、入学式を行うことを、たいへん嬉しく思っております。

50年を超える、歴史と伝統のある、成城高等学校の定時制の一員となり、緊張のなかに、希望に胸を膨らませ、正面を見据え、ここに座っている、生徒諸君に、大きな拍手を送りたいと思います。

高校生活は、長い人生のなかでも、心や体の成長や社会生活の広がりなど、大きな変化があるとともに、将来の基盤をつくることや、一生の思い出をつくる場であるなど、とても大切な時期です。皆さんには、「この大切な高校生活の、一日一日を生きているのだ」という自覚を持ち、高校生活を充実させるよう、しっかりと毎日を送って欲しいと思います。

保護者の皆様。成城高等学校定時制の課程へのご入学、誠におめでとうございます。これまでのご苦労に、ねぎらいを申し上げますとともに、これからも、3年間または4年間、決して、あせることはありません、それぞれのペースでゆっくりと進んでいく、これが夜間に学ぶ定時制ならではの特徴です。共に、お子様の成長のために、力を出し合ってまいりましょう。どうぞ、本校教育の推進にご理解とご協力をお願い申し上げます。

改めて、新入生の皆さん、ご入学おめでとう。皆さんの入学を教職員一同、こころから歓迎いたします。中学までの義務教育を終え、今日から皆さんは晴れて高校生となりました。

この成城高等学校の定時制は、総合学科です。多くの教科、特徴ある授業内容、基礎から大学進学対応まで、コンピュータや機械などの工業科目など、様々な学習が展開されています。夜に学ぶ生活リズムに慣れ、将来への目標を持ち、自分を磨いていって欲しいと思います。

皆さんの入学を祝し、私からふたつのメッセージを贈りたいと思います。

ひとつめは、「千里の道も一歩から」という諺です。これは、老子という中国の学者の言葉です。千里とは、とほうもない長い距離のことです。長い道のりであっても、最初の勇気ある一歩がなければなりません。また、少しずつでも一歩一歩を積み重ねていけば、必ず辿り着き、夢などを成し遂げることができるという意味です。私は、この言葉を中学の時の先生から授業で教わりました。数年後や、10年後といった先の未来や、希望に漠然とした思いで不安になっていた自分に、勇気ある一歩を大切にしなさい、そして少しずつでも継続していきなさい、そうすれば夢や希望は叶うのだと教えられ、この言葉を励みに学校生活を送ってきました。

私も皆さんにも、この言葉を贈ります。今日の入学式から一歩をスタートに、一日一日を大切にすごしていけば、遠くにしか見えていなかった夢や希望を叶えることができます。ささやかな一歩であっても、継続していくことが大切です。皆さんの高校生活での一歩を後押し、共に歩いていく学びをこの学校では提供していきたいと思っています。

ふたつめは、「皆それぞれが、個性のある花を咲かせて欲しい」ということです。入学式の前に、街角を歩いていましたら、厳しい冬を乗り越えた、様々な花が色とりどりに咲いていました。大きな木の花もあれば、小さな花もあります。それぞれに美しく咲いています。どの花も、一生懸命に咲いていて、春を祝っているように思いました。私は、皆さんを競い、比べるようなこと、一番になるように追い立てることはしません。まず、自分を理解し、自分を大切にし、そして自分の夢の花を咲かせて欲しいと思います。学校生活では、皆さんの長所や良いところを見つけ、個性を伸ばしていく教育をすすめていきたいと思っています。いまは、小さな種や蕾かもしれませんが、何年か後に、それぞれの花を咲かせて欲しいと思います。

二つのことを伝えました。一步を踏み出す勇気と継続。そして、自分の長所を生かし、将来に花を咲かせる。こうして出会えた、皆さんの数年後がとても楽しみです。

以上をもちまして、簡単ではありますが、私からの式辞といたします。

平成27年4月7日 大阪府立成城高等学校 定時制の課程 准校長 富田公一